

会議録

主題	平成 30 年度 第 2 回 (仮称) 狭山市防災基本条例市民検討委員会		
打合日時	平成 30 年 11 月 20 日 (火) 19:00~21:00	会議	第 2 回
場所	狭山市役所 6 階 603・604 会議室		
出席者	矢吹委員、栗原啓二副委員長、廣岡委員、大野委員、片寄委員、眞船委員、中村委員、石田委員、小野委員、山口委員、吉野委員、三輪委員、鍵屋委員長、竹内委員、中川委員、井上健委員、尾澤委員		
代理出席者	無し		
欠席者	栗原大輔委員、岸本委員、井上充司委員、水田委員		
事務局	金子危機管理監 危機管理課：渡辺課長、小峰主幹、栗原主任、白石主任		
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回 (仮称) 狭山市防災基本条例市民検討委員会次第 ・ 防災基本条例ワークショップの結果と傾向【資料 1】 ・ 防災に関する市民アンケート調査結果【資料 2】 ・ 防災に関する市民アンケート調査【資料 3】 ・ 内閣府防災スペシャリスト研修 標準テキスト (抜粋)【資料 4】 ・ 避難所となった特別支援学校【資料 5】 ・ 第 1 回 (仮称) 狭山市防災基本条例市民検討委員会 議事録【参考】 		

議事

議題 (仮称) 狭山市防災基本条例案の具体的検討

【意見・質疑応答】

□防災基本条例ワークショップの結果と傾向について

- ・ 具体的なアイデア項目の分類について、「日頃からの備え」「顔の見える関係づくり」「避難所に関すること」は意見としてよく出てくるが、「情報」というのは非常に大きな特徴だった。

「情報」の重要性について、ある程度専門的な知識がある方であれば、「情報無くして、行動無し」であるため、重要性を理解しているが、一般的にはそうではない。今回参加いただいている委員の方は情報に対する感度が高いと感じているので、本検討委員会からの有力な提案になると思われる。

議事

□防災に関する市民アンケート調査結果について

- ・「(6) 災害時に命を守るため重要だと思うこと」について。

「市が的確な情報を住民に周知すること」など、重要なことはいくつもあるが、命を守るために先ず重要なことは、早く逃げることと、逃げる間もなく地震から命を守ることであるため、「家具固定等の対策を実施すること」や「避難経路を自ら考え、自ら判断して必要な行動をとること」、それを実行するための「防災訓練への参加」などが大切である。

しかし、これらに対する重要性の意識が見事に低い結果となっており、大きな課題となるため、この条例をつくることによって、これらの項目の重要性の意識を将来的に上げていくことを目指すことが大事だと思われる。

- ・調査結果について、「災害や防災への関心があり、「自助」や「共助」が重要なことを頭で理解しているが、実際の防災対策等への行動が取られていないという実態がある。」とまとめているが、特に「防災訓練への参加、防災意識を高める」ことの重要性の意識が低かったことについて、市として原因をどのように考えているか。

私は「狭山市は安全だ」という意識が高いことに尽きると思っている。

⇒委員のご指摘のとおり、地盤が固いこと、今まで大規模な災害が発生していないことから、そう考えている方が多いことは原因の1つだと考えている。

また、もう1つの原因として、防災訓練が、市民の皆さんが「参加してみよう」と思える訓練になり得ていないことが考えられる。そのような状況も踏まえ、今年度は初めて「子ども向けの体験型防災ワークショップ」を実施するなど、改善を試みている。引続き、訓練内容の充実に努め、参加者数の増加や、重要性の意識の向上に繋がるよう取り組んでいきたい【事務局】

- ・アンケート調査結果について、性別や年齢、地区別など、それぞれの傾向、例えば、若い世代の傾向や、あるいはどの地区が防災への関心が高いなどの傾向はあったのか。

⇒クロス集計まで至っていないため、そこまでの分析はできていない【事務局】

- ・今のは大変貴重な意見である。元データがあれば可能であるため、重要な項目についてはクロス集計を行い、データを押さえてもらいたい。

- ・近所づきあいについて、挨拶をする、話をするという方は、回答をエリアごと集計すれば、農業地域や柏原・水富地区は、全体の傾向よりももう少し高くなると思われる。災害時に避難した際、共助は重要であるため、今後、この部分を高める努力をしていかなければならない。狭山市に70年住んでいるが、近所づきあいについては、もう少し高い結果が出ると思っていたので、がっかりしている。

議事

- ・今のご意見について回答になるか分からないが、全国的な傾向である。人と人の繋がりが弱くなっているのが、今の日本社会。昔と違い、家が近いから繋がりが強いわけではなくなった。趣味や関心が同じ人とは繋がりはあるけども、物理的に近いから仲良くするという傾向はなくなった。これは災害時には非常に具合が悪いため、気軽に話ができる関係は必要だと思われる。

□ワークショップ：跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部：鍵屋一教授

資料4「内閣府防災スペシャリスト研修 標準テキスト（抜粋）」により、「災害への備え」「警報避難」「応急活動」「被災者支援」「復旧・復興」について説明が行われた後、資料5「避難所となった特別支援学校」を踏まえ、避難所における課題や事例において良かったこと、進めるべき対策について各委員が意見を出しあい、グループごとにまとめた。

議事終了

以上